

京都府地域創生推進会議（第3回） 概要

○日 時 令和2年1月27日（月） 午後3時30分～午後5時00分

○場 所 京都ガーデンパレス「鞍馬」

○出席者

赤瀬 史 日本労働組合総連合会京都府連合会副事務局長
岡田憲和 京都市副市長
（代理：総合企画局総合政策室 佐藤SDGs・市民協働推進部長）
奥野美奈子 株式会社京都銀行執行役員／公務・地域連携部長
小田一彦 一般社団法人京都府農業会議副会長
澤井安子 京都府女性の船「ステップあけぼの」会長
汐見明男 京都府町村会長（代理：西川事務局長）
原田紀久子 （特非）アントレプレナーシップ開発センター理事長
藤本明美 （特非）京都子育てネットワーク理事長
松本紘（座長） 京都大学前総長／国立研究開発法人理化学研究所理事長
宗田好史 京都府立大学副学長・生命環境学部教授
京都府：山下副知事、松本企画理事、稲垣政策企画部長、加藤政策企画部副部長、
伏原戦略企画課長 ほか

<第2期京都府地域創生戦略（最終案）について>

○主な意見

- ・「子育てにやさしい風土づくり」のためには、府民一人ひとりの方に、子育てしやすい環境づくりのための意識改革が必要。案中に「子育てにやさしい風土づくり」の項目があるが、府民の意識改革といったことが盛り込まれていても良いのではないかと。
- ・案中に記載されている、海・森・お茶・竹の「もうひとつの京都」の取組において、Iターン、Jターン、Uターンなどにより各地域に新しい人材が入ってくる。また、「食の京都」においても、食分野の貴重な人材が入ってくるので、京都府等の支援を受けながら定着できるような仕組みをつくり、京都府が子育てをしやすいということが本戦略の中で目に見えるように記載されたい。
- ・地域を活性化するには、そこで暮らして働いていく人々が必要だが、働く場を必ずしも用意することは難しいので、自分で仕事をつくり出せる人を育成していくことがとても重要。案中の「2 夢を実現する教育の推進」に、「児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育の推進」とあるが、キャリア教育の中で、誰かに雇われる職業体験だけでなく、起業することも選択肢の一つとして子供たちが学ぶといった記述を、「アントレプレナーシップを含めて」といった形でぜひ入れてほしい。
- ・数値目標を合計特殊出生率で設定するという案については、新たな指標を掲げたほうが良いのではないかと。子育てにやさしい環境づくりや風土づくりに力を入れていくのであれば、そこに新たに具体的な指標を立ててはどうか。
- ・Society5.0とSDGsについて、SDGsというのはSociety5.0と結びつく部分もあるけれども、もっと広い概念である。SDGsへの取組をもう少し記述すべきではないかと。

- ・企業版ふるさと納税や地方創生推進交付金、地域交響プロジェクト交付金など、本戦略を実現するために財源をどう生み出して活用していくのかという考え方は重要。
- ・ベンチャー育成というのはお金を出せばいいという問題ではなく、成功したところと組んでやる、あるいは指導する人がいないとつぶれてしまう。京都府も仲立ちして、京都の優良企業から指導してもらえないか。
- ・人口問題についても、単一自治体だけでなく、近隣の市町村も含めた都市圏の両方で考えなければいけないようなことが地方創生には非常に多いと実感をしている。引き続き、連携をお願いしたい。
- ・案中の「華道」「祇園祭」の例示は少々具体的過ぎるのではないか。地藏盆のようなもっと小さな地域の祭によって、まちへの愛着が湧いてくることもあると思うので、あまり具体の例示をせず、もう少し抽象的な言葉のほうが良いのではないか。
- ・数値目標については京都府全体の数値になっているが、京都府全体では達成していても、地域によって色々な状況がある。それぞれの地域でどうなっているかということ进行分析して、全ての地域で幸せが実感できる社会ができるように、具体的な取組をぜひお願いしたい。

○松本座長総括

- ・最終的に取りまとめをするに当たっては、事務局と座長に御一任いただき、改めて最終案を各委員に報告する方向で進める。